

平成 24 年度 政策評価結果

平成 24 年 9 月

京 都 市

1 政策評価制度とは

(1) 政策評価制度の位置付けと役割

京都市では、京都市基本計画（第1期〈2001-2010〉、第2期〈2011-2020〉）に基づき、市民に開かれた効果的な市政を推進するため、行政評価制度の導入と充実に取り組んできました。

平成19年6月には、政策評価、事務事業評価をはじめとする7つの評価制度を恒久的・継続的な取組とするため、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例（行政評価条例）」を施行しました。

政策評価制度は、政策の目的がどの程度達成されているかを評価し、その結果を市民の皆様公表するとともに、より効果的な市政の運営や政策の企画・立案に役立てることを目的としています。すなわち、京都市が京都市基本計画に基づいて取り組んだ政策や施策のそれぞれの分野において、京都市をはじめとする各種の行政活動や民間の諸活動などによって市民生活の状態が今どのようなになっているのかを各種の指標やアンケート調査を基に把握し、分析して評価を行い、次の政策、施策の展開に役立てるために実施しているものです。

(2) 取組経過

平成15年度	試行実施
平成16年度～	本格実施
平成24年度	5月 市民生活実感調査を実施
	9月 政策評価結果を公表 (今後の予定)
	政策評価委員会に評価結果を報告し、 来年度の政策評価方法の改善方針等について審議

(3) 政策評価の対象と手法

ア 評価の対象

平成23年度から10年間の都市経営の基本である「はばたけ未来へ！ 京プラン（京都市基本計画 第2期）」（以下「京プラン」といいます。）の政策体系をベースに、特定の行政課題に対応するために本市が目指すべき基本的方向である政策（27項目）と、政策をより具体化した行政活動の目標となる施策（114項目）について、両者を評価します。

イ 評価の手法

① 客観指標評価、市民生活実感評価と総合評価【政策・施策の評価共通】

政策・施策ごとに、統計データ等の中から客観指標を設定して目標達成度等の成果を測る「客観指標評価」と、「京プラン」に掲げた「みんなでめざす10年後の姿」に対して今の市民生活がどうなっているかをアンケートでお尋ねする「市民生活実感評価」の結果を総合化し、A～Eの5段階で評価します。

【客観指標評価】→a～eの5段階評価

政策指標の例：市内の学生数が全国の学生数に占める割合

施策指標の例：市内の大学・短期大学における市民向け公開講座の実施率

- ＊ 各政策・施策の状況を統計的な数値等により表した指標をそれぞれに設定し、その目標達成度等で評価します。

【市民生活実感評価】→a～eの5段階評価

アンケートの設問例：大学のまちとして学びの環境が充実している。

- ＊ 市の取組についてどう思うかではなく、市民生活がどのようになっているかを130の設問でお尋ねし、「大変良い状況にある」から「大変悪い状況にある」までの5段階で答えていただきます。

【総合評価】→A～Eの5段階評価

政策・施策の目的が

- A：十分に達成されている
- B：かなり達成されている
- C：そこそこ達成されている
- D：あまり達成されていない
- E：達成されていない

② 施策の総合評価

施策の客観指標評価と市民生活実感評価の総合評価に当たっては、基本的には客観も実感も同等に重要と考えたうえで、客観・実感の評価結果が同じか、何段階離れているか、両者の中間段階が取れない場合は施策の性質上どちらをより重視すべきかによって、予め定型化した方法で総合評価を行います。

③ 政策の総合評価

政策の客観指標評価と市民生活実感評価の総合評価は、施策評価と同様、客観・実感それぞれの評価結果を同等に扱ったうえで、個々の客観指標や市民生活実感調査の結果、社会経済情勢など、さらに多角的な観点から様々な要素を勘案して行います。

また、政策の評価は、施策の評価の積み上げではなく、施策の指標以上に社会経済情勢等の影響が反映される政策レベルの指標を用いることや、多角的な観点で総合評価を行うことなどから、両者の総合評価の結果が一致しないことが起こり得えます。

2 平成24年度の取組状況

昨年度の評価結果に対する京都市政策評価委員会からの意見を踏まえ、以下のとおり、「京プラン」の政策体系をベースとした政策評価を実施しました。

(1) 市民生活実感調査

ア 調査対象

20歳以上の市民3,000人（住民基本台帳及び外国人登録データから無作為抽出）を対象に郵送で調査票を送付し、回収しました。

イ 調査期間

平成24年5月14日～6月6日

ウ 回収状況

有効回答数 1,186 （回収率 39.5%）

年度	有効回答数	回収率
24	1,186	39.5%
23	1,157	38.6%
22	1,222	40.7%
21	1,272	42.4%
20	1,486	37.2%
19	972	32.4%
18	1,099	36.6%
17	1,129	37.6%
16	1,237	41.2%

※調査対象者数3,000人
（20年度は4,000人）

エ 「幸福実感」に関する設問の新設

平成24年度から新たに設問「今、あなたは幸せだと思いますか。」を追加しました。

＊ この冊子の10・11ページに調査結果の概要を掲載しています。

(2) 客観指標

平成23年度から「京プラン」をベースに、政策・施策の各レベルに応じた客観指標を設定しており、政策評価の結果がより行政活動の指針となるよう、新たな指標の設定に努めた結果、政策・施策全体の指標数は、昨年度から3つ増え、297となりました。このうち、5つの指標については、次回以降、調査の実績値を踏まえた目標値を設定し、客観指標評価を行うこととしています。

3 政策・施策評価結果

- * この冊子の7ページに参考資料として「政策・施策評価結果一覧」を掲載しています。
- * 以下の本文の()内の数字は、「京プラン」の体系に基づく政策・施策分野の番号です。

(1) 政策の評価

ア 全体の傾向

政策27項目の評価結果の内訳

年度	A	B	C	D	E	計
24年度	4 (14.8%)	19 (70.4%)	4 (14.8%)	0	0	27
23年度	2 (7.4%)	19 (70.4%)	6 (22.2%)	0	0	27

今年度は昨年度と比べ、A評価の数が3増1減で2政策増加し、B評価は5増5減で増減なし、C評価は2増4減で2政策減少となりました。

昨年度と比べ、文化(6)、スポーツ(7)、地域福祉(15)、学校教育(18)、景観(22)、道と緑(25)、くらしの水(27)の7政策の評価が上がり、人権・男女共同参画(2)、保健衛生・医療(17)、消防・防災(26)の3政策の評価が下がりました。

イ A評価の政策

大学(11)は昨年度から引き続き、学校教育(18)、景観(22)、くらしの水(27)は昨年度のB評価から上昇し、A評価となりました。

大学については、客観指標としている市内学生数の全国学生数に占める割合がa評価となり、市民生活実感評価の「大学のまちとしての学びの環境の充実」と「大学の研究成果の高さ」に関する設問の回答結果がa評価であったことによります。

学校教育については、客観指標としている「小中一貫教育校」または「小中一貫教育推進校」に指定した中学校ブロックの割合や「総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数」がa評価となったほか、市民生活実感評価の回答結果が全体としてb評価と、かなり肯定的に評価されていたことによります。

景観については、客観指標としている「三山森林景観保全・再生ガイドラインに基づく森林整備面積」や「景観づくりに取り組む地域数」がa評価となり、市民生活実感評価の「身近にある誇りや愛着を持てる町並みや風景」や「自然風景の魅力」に関する設問の回答結果がa評価であったことによります。

くらしの水については、客観指標としている「雨水整備率(10年確率降雨対応)」や「平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率」など、5つの指標中4つがa評価となったほか、市民生活実感評価の「上下水道の安全性」や「大雨時の浸水対策」に関する設問の回答結果がa評価であったことによります。

(2) 施策の評価

ア 全体の傾向

施策 1 1 4 項目の評価結果の内訳

年度	A	B	C	D	E	計
2 4 年度	2 2 (19.3%)	6 9 (60.5%)	2 0 (17.5%)	3 (2.6%)	0	1 1 4
2 3 年度	2 2 (19.3%)	6 2 (54.4%)	2 8 (24.6%)	2 (1.7%)	0	1 1 4

昨年度と比べて総合評価が上がった施策は、すべてのひとの人権を尊重する人権文化の構築（0 2 0 1）など 2 3 施策あり、下がった施策は、大学の国際化に向けた人材育成と留学生等の受入拡大（1 1 0 2）など 1 5 施策ありました。

イ 評価結果が高かった施策

評価結果が特に高かった施策（客観指標評価、市民生活実感評価が共に a 評価）は、ごみを出さない循環型社会の構築（0 1 0 3）、京都で学び、住み続けたいなる「大学のまち」の実現（1 1 0 1）、市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の拡充（1 9 0 1）、地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用（2 0 0 4）、山紫水明の自然景観の保全（2 2 0 1）、市民とともに推進する景観まちづくり（2 2 0 5）、健やかな生活が実感できる緑化の推進（2 5 0 2）、水辺環境の整備（2 7 0 6）の 8 施策でした。

ウ 評価結果が低かった施策

評価結果が低かった施策（総合評価結果が D 評価）は、創造を続ける南部地域のまちづくり（2 1 0 3）、市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくり（2 1 0 4）、京都らしいすまい方の継承（2 4 0 1）の 3 施策でした。

創造を続ける南部地域のまちづくりでは、らくなん進都への企業立地が、市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくりでは、地区計画、建築協定及び景観協定の締結数増加に向けた取組が、京都らしいすまい方の継承では、平成の京町家の普及が、それぞれ主な課題となっています。

昨年度と比較して客観指標、市民生活実感の結果が上下した原因の分析や総合評価の判断内容については、別冊「平成 2 4 年度 政策評価（評価票）」に掲載していますので、別冊「平成 2 4 年度 政策評価（客観指標基礎データ）」と併せて御参照ください。

4 評価結果を市政運営へ活用

評価結果については、来年度の予算編成、各局区等の政策推進などの際に、重要な情報として活用していきます。

5 第三者機関の意見 ～京都市政策評価委員会による制度の改善，充実～

今後、第三者機関である京都市政策評価委員会から今回の政策評価結果に関する御意見を頂き、来年度に向けて制度の充実，改善を行います。

京都市政策評価委員会委員（敬称略・五十音順）

おおしま	さちこ	楽洛まちぶら会事務局，スーク創生事務所代表
大島	祥子	
かさま	のりお	同志社大学政策学部教授
風間	規男	
かわむら	りつこ	立命館大学国際関係学部准教授
河村	律子	
くぼた	よしお	京都府立大学公共政策学部准教授
窪田	好男	
こしむら	みほ	公募委員
越村	美保子	
ふくにし	のぶじ	公募委員
福西	惟次	
よこい	やすし	あずさ監査法人本部理事
横井	康	

政策評価結果は以下のホームページに収録しています。

（「政策評価制度」ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035589.html>）

なお、9月24日（月）から京都市情報公開コーナーにおいても公開します。

京都市の政策評価に関する御意見・御提案をお待ちしています。

- ホームページ内の送信フォームによる受付

（「市民意見申出制度」ホームページ

http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/soshiki/2-9-4-0-0_24.html）

- 電話・FAXによる受付

京都市総合企画局政策企画室政策企画担当

TEL：075-222-3035 FAX：075-212-2902

<参考>

1 政策・施策評価結果一覧

政策	政策の 評価 (24年 度)	施策		施策の 総 評 価 (24年 度)
		番号	施策名	
1 環境	B	0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全	A
		0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現	B
		0103	ごみを出さない循環型社会の構築	A
2 人権・男女共同参画	C	0201	すべてのひとの人権を尊重する人権文化の構築	B
		0202	人権尊重の理念を自主的な行動につなげる取組の推進	B
		0203	すべての市民がいきいきと活動できる取組の推進	C
		0204	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進	B
		0205	女性に対するあらゆる暴力の根絶	B
3 青少年の成長と参加	C	0301	青少年の自主的な活動の促進	B
		0302	課題に直面する青少年の総合的支援の推進	B
		0303	青少年の成長を支援する環境づくり	B
4 市民生活とコミュニティ	B	0401	いきいきと活動する地域コミュニティづくり	C
		0402	すべての市民活動団体の活性化	C
		0403	地域コミュニティと京都市との新しいパートナーシップ	B
5 市民生活の安全	B	0501	生活安全（防犯・事故防止）の推進	B
		0502	消費生活の安心・安全の推進及び消費者の自立支援	C
6 文化	B	0601	すべての市民が京都のまちを支え、かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり	B
		0602	歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援	B
		0603	世界的な交流を視野に入れた文化芸術環境の向上	B
		0604	かけがえのない文化財の保護、活用と伝承	A
7 スポーツ	B	0701	それぞれの年齢や個性、環境に応じてスポーツやレクリエーションを楽しんでいるまちづくり（「するスポーツ」）	B
		0702	トップレベルのスポーツに身近に触れられているまちづくり（「みるスポーツ」）	C
		0703	多様なスポーツ活動を支え合っているまちづくり（「支えるスポーツ」）	B
8 産業・商業	C	0801	多様で活力ある中小・ベンチャー企業の育成と発展支援	A
		0802	産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出	A
		0803	京都の強みを生かした事業環境の整備	A
		0804	伝統産業の活性化と新たな展開の推進	A
		0805	地域の特性に応じた商業振興	B
		0806	ソーシャルビジネス（社会的企業：社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む事業体）への支援	B
		0807	市民に安心していただける流通体制の強化	A
		0808	雇用の維持・確保と新たな雇用創出に向けた取組の推進	B
9 観光	B	0901	観光スタイルの質の向上	B
		0902	観光都市としての質の向上	A
		0903	国際MICE都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～への飛躍	B
10 農林業	B	1001	産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成	B
		1002	環境や社会に貢献できる農林業の育成	B
		1003	市民との共汗で築く農林業	B
11 大学	A	1101	京都で学び、住み続けたい「大学のまち」の実現	A
		1102	大学の国際化に向けた人材育成と留学生等の受入拡大	B
		1103	学生のパワーで活気あふれる「学生のまち」の実現	B
		1104	産業の振興と大学教育の充実に向けた産学公地域連携の推進	B

政策	政策の 評価 (24年 度)	施策		施策の 総合 評価 (24年 度)
		番号	施策名	
1 2 国際化	B	1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信	C
		1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進	C
		1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進	C
1 3 子育て支援	B	1301	市民ぐるみ・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくり	B
		1302	子どものいのちと人権が大切にされるまちづくり	C
		1303	次世代を育むすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり	A
		1304	子どもを安心して生き健やかに育てることのできるまちづくり	B
		1305	子どもの健全育成のための環境づくり、放課後の子どもたちの居場所づくり	B
1 4 障害者福祉	B	1401	お互いに認め合い支え合ってくらすまちづくり	B
		1402	自立した地域生活への移行促進	B
		1403	生きがいをもって働くことができる社会づくり	B
		1404	生活しやすい社会環境の整備	C
1 5 地域福祉	B	1501	地域の福祉ニーズの把握	B
		1502	地域におけるつながりの構築	C
		1503	関係者の連携・協働の推進	B
		1504	地域福祉を通じた安心・安全のまちづくり	B
1 6 高齢者福祉	B	1601	高齢者の尊厳を保つ社会の構築	B
		1602	活力ある長寿社会の実現	B
		1603	高齢者を支えるネットワークの推進	B
		1604	介護サービスの充実による豊かな生活の実現	B
		1605	魅力ある介護現場の実現	B
1 7 保健衛生・医療	B	1701	市民の健康づくり活動の推進	B
		1702	保健医療サービスの充実	B
		1703	食や生活環境の安全・安心の確保	B
		1704	健康危機に対する安全・安心の確保	B
1 8 学校教育	A	1801	市民ぐるみの教育の推進	A
		1802	子どもたちに「生きる力」を育む教育の推進	A
		1803	教職員の資質・指導力の向上	B
		1804	新しい学習環境づくり	A
1 9 生涯学習	B	1901	市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の拡充	A
		1902	学びが社会に還元されるしくみづくり	B
		1903	子どもを共に育む気運づくり	B
2 0 歩くまち	B	2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化	B
		2002	歩く魅力を最大限に味わえるような歩行者優先のまちづくり	B
		2003	歩いて楽しいくらしを大切にするライフスタイルへの転換（「スローライフ京都」 プロジェクト 大作戦）	C
		2004	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用	A
		2005	歩行者と共存可能な自転車利用の促進	C
2 1 土地利用と都市機能配置	B	2101	便利でくらしやすい生活圏づくり	B
		2102	商業・業務機能が集積したにぎわいのある魅力的なまちづくり	B
		2103	創造を続ける南部地域のまちづくり	D
		2104	市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくり	D
		2105	まちづくりを支えるしくみづくり	C

政策	政策の 評価 (24年 度)	施策		施策の 総合 評価 (24年 度)
		番号	施策名	
22 景観	A	2201	山紫水明の自然景観の保全	A
		2202	品格のある市街地景観の形成	B
		2203	歴史的な町並みや京町家等の保全	B
		2204	無電柱化等による魅力あふれる道路空間の創出	C
		2205	市民とともに推進する景観まちづくり	A
23 建築物	B	2301	安全な新築建築物の供給	B
		2302	既存建築物の安全性の向上	B
		2303	細街路対策による災害に強いまちづくり	B
		2304	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導	C
		2305	公共建築物の先導的整備	B
24 住宅	B	2401	京都らしいすまい方の継承	D
		2402	住宅ストックの良質化のための適正な維持管理や更新の支援	B
		2403	既存住宅の流通活性化のための条件整備	B
		2404	住宅・住環境の安全性の向上	B
		2405	重層的な住宅セーフティネット（安全網）の構築	C
		2406	中・大規模の市営住宅団地のマネジメント	C
25 道と緑	B	2501	幹線道路ネットワークの充実	B
		2502	健やかな生活が実感できる緑化の推進	A
		2503	都市活動を支える社会資本の維持管理	B
		2504	まちのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備	C
26 消防・防災	C	2601	火災を未然に防止して市民のいのちとくらしと財産を守る予防消防の推進	C
		2602	あらゆる災害による被害を最小限に抑える消防活動体制の充実強化	B
		2603	市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上	B
		2604	地域の災害対応力の向上をはじめとする防災危機管理体制の充実	B
27 暮らしの水	A	2701	安全・安心な水道・下水道の構築	B
		2702	環境負荷の少ない水道・下水道の構築	A
		2703	水道・下水道の機能維持・向上	B
		2704	市民ニーズに対応した上下水道サービスの推進	B
		2705	上下水道事業の経営基盤の強化・安定	A
		2706	水辺環境の整備	A
		2707	水共生の取組の推進	B

- 政策と施策の評価結果については、政策・施策の各レベルに応じた客観指標を設定し、それぞれの基準に沿って評価を行っているため、政策評価の結果と、その政策を構成する施策評価全体の結果が、見た目上つながらない場合があります。
- 政策と施策の評価結果の差が大きい「産業・商業」については、施策レベルでの取組は進捗しており、政策指標として設定した「京都府の完全失業率」も一定改善しているものの、「製造業における市内総生産」が減少し、雇用に関する市民の実感もやや否定的な評価であったことがその原因と考えられます。
- 各評価結果の根拠等については、別冊「平成24年度 政策評価（評価票）」、「平成24年度 政策評価（客観指標基礎データ）」又はホームページを御覧ください。

政策評価制度 <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035589.html>

2 市民生活実感調査結果

(1) 生活実感

「大学のまちとして学びの環境が充実している。」など、「京プラン」に掲げた「みんなでめざす10年後の姿」に対して、今の市民生活がどうなっているかをお尋ねするため、130の設問について、市民の実感を基に次のa～eの5段階で回答していただくものです。

a：そう思う

b：どちらかというと思う

c：どちらとも言えない

d：どちらかというと思わない

e：そう思わない

＊ 以下、aとbを合わせて「肯定的な回答」、dとeを合わせて「否定的な回答」といいます。

ア 評価結果の内訳

	a	b	c	d	e	計
24年度	17 (13.1%)	42 (32.3%)	55 (42.3%)	16 (12.3%)	0	130
23年度	18 (13.8%)	47 (36.2%)	54 (41.5%)	11 (8.5%)	0	130

イ 肯定的な回答をした人の割合が高い設問

上位2問は昨年度と同じでした。

24年度	三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。(87.7%)
	公共の場では禁煙が進んでいる。(84.1%)
	京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。(81.9%)
23年度	三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。(88.1%)
	公共の場では禁煙が進んでいる。(81.3%)
	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。(80.1%)

ウ 否定的な回答をした人の割合が高い設問

上位2問は昨年度の2位・3位と同じでした。

24年度	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。(52.4%)
	京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。(51.9%)
	まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。(50.8%)
23年度	プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。(51.6%)
	京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。(51.1%)
	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。(48.4%)

エ 政策分野ごとの生活実感評価【別表１・別表３参照】

生活実感評価が全体的に高かった上位２分野は、昨年度と同じでした。

２４年度	①くらしの水，②景観，③保健衛生・医療
２３年度	①くらしの水，②景観，③観光

生活実感評価が全体的に低かった上位２分野は、昨年度と同じでした。

２４年度	①青少年の成長と参加，②農林業，③人権・男女共同参画
２３年度	①青少年の成長と参加，②農林業，③住宅

(2) 政策の重要度（２７の政策分野中、重要と思われるもの５つを選択）【別表２・別表３参照】

上位５分野は昨年度と同じでした。

２４年度	①子育て支援，②消防・防災，③市民生活の安全，④高齢者福祉， ④環境（「高齢者福祉」と「環境」は同率）
２３年度	①高齢者福祉，②子育て支援，③消防・防災，④環境，⑤市民生活の安全

(3) 市政への関心度（市政への関心度合いを５段階で回答）

全体の傾向は昨年度とほぼ同じでした（「関心がある」と「少しは関心がある」の合計は約２％低下）。

	関心がある	少しは関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	わからない	無回答
２４年度	33.1%	46.2%	10.4%	0.9%	3.8%	5.6%
２３年度	35.1%	46.2%	8.3%	1.3%	2.7%	6.5%

(4) 幸福実感（平成２４年度から新たに設問「今、あなたは幸せだと思いますか。」を追加。５段階で回答。）

約７割の方が幸せと回答（「とても幸せ」と「どちらかという幸せ」の合計）

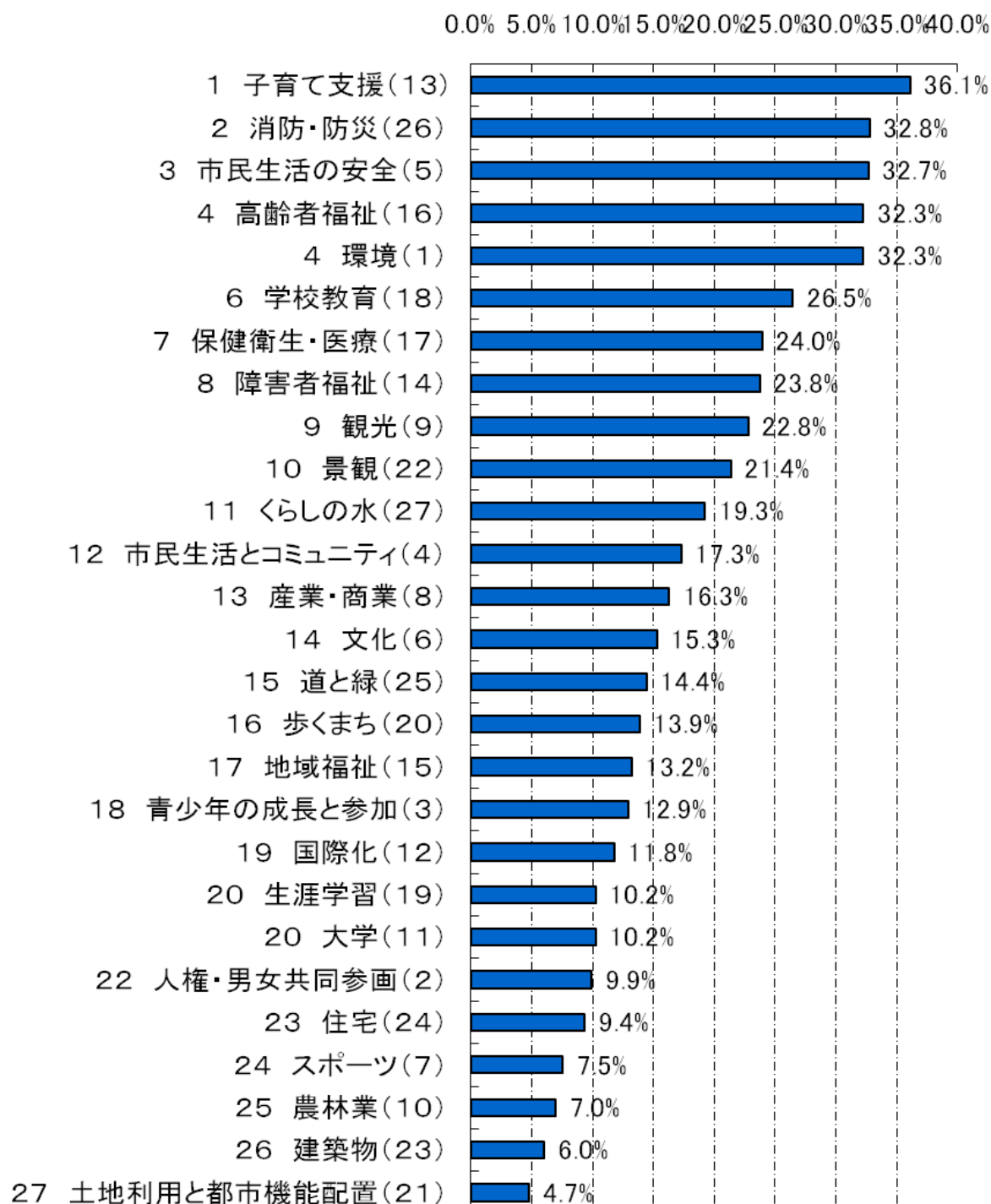
	とても幸せだと思う	どちらかという幸せだと思う	どちらとも言えない	どちらかという幸せではないと思う	不幸せだと思う	無回答
２４年度	17.3%	55.4%	16.7%	3.8%	1.4%	5.4%

【別表 1】市民生活実感における評価の高かった政策分野

24 年度順位	政策分野名（政策番号）	23 年度順位
1	くらしの水（27）	1
2	景観（22）	2
3	保健衛生・医療（17）	4
4	観光（9）	3
5	大学（11）	6
6	国際化（12）	5
7	文化（6）	7
8	消防・防災（26）	8
9	土地利用と都市機能配置（21）	9
10	環境（1）	10
11	学校教育（18）	12
12	生涯学習（19）	11
13	道と緑（25）	13
14	産業・商業（8）	15
15	歩くまち（20）	16
16	高齢者福祉（16）	18
17	子育て支援（13）	14
18	市民生活とコミュニティ（4）	17
19	建築物（19）	19
20	地域福祉（15）	21
21	市民生活の安全（4）	20
22	障害者福祉（14）	22
23	スポーツ（7）	23
24	住宅（24）	25
25	人権・男女共同参画（2）	24
26	農林業（10）	26
27	青少年の成長と参加（3）	27

※()内の数字は政策分野の番号

【別表 2】政策重要度（27 政策における市民の重要度）



※()内の数字は政策分野の番号

【別表 3】政策重要度と市民生活実感のマトリックス

政策重要度：回答数÷有効回答者数
市民生活実感：政策ごとの生活実感の平均数値

